

平成 30 年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

平成 30 年 1 月 10 日

礼文町長 小 野 徹

明けましておめでとうございます。

輝かしい平成 30 年の穏やかな新春を皆さんとともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げます。

また、本日は、新年早々の何かとお忙しいところ、新春懇談会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、皆様には、日ごろから町政の推進にあたり格別なるご理解とご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼を申し上げる次第でございます。

さて、本年も年の始まりにあたり、新春懇談会の席上で、町の表彰条例に基づく「功労者表彰式」を行わせていただきました。

本日受賞された皆様は、本町の基幹産業である漁業振興に長きにわたり多大な貢献をされた方、多年にわたり地方自治の進展に尽くされ、また、地域を災害や火災から守り、安心安全な地域づくりと住民福祉の向上、交通安全や納税思想の普及啓蒙に長きにわたって尽くされた方々、あるいは、郷土礼文町の発展のため献身的にご尽力を賜りました方々でご

ございます。新しい年の始まりにあたり、ふるさと礼文町の発展を願って大きな夢の種をまかれ、本町の振興発展に多大なご功績を賜りました皆々様にあらためて衷心より敬意と感謝を表する次第でございます。

どうぞ、これからも礼文町発展のため、変わらぬご支援ご協力を賜りますよう心からお願いを申し上げます。

さて、明るい希望をもって迎えた 2018 年、穏やかに迎えた平成 30 年は、戌(いぬ)年であります。

戌年は十二支の 11 番目で、「植物の成長の最盛期」ということから、「収穫」を意味する年と云われており、あらゆるジャンルで活気があふれ、困難さを伴うこともありますが、忠実に、また、確実に行なえば、収穫の多い年になると云われています。

また、「次の世代へバトンをつなぐ」意味があるそうでございます。

今年は「明治 150 年」、1868 年の「明治維新」から 150 年となります。

約 260 年続いた江戸時代が終わり、1868 年、明治政府によって近代国家への第一歩を踏み出したわが国は、こののち、多くの困難を克服しながら、多岐にわたる近代化への取り組みを進め、東アジアで最も早く近代化に成功して、今日の繁栄を築き上げたのでございます。

安倍総理は、年頭のあいさつで、今年が明治維新から 150 年にあたることに触れ、『今また日本は「少子高齢化」という国難ともいうべき危機に直面している。150 年前の先人たちと同じように行動を起こすことができるかにかかっているので、「全世代型の社会保障の実現に向けた実行の一年」と位置づけ、具体的には「子どもたちの未来に大胆に投資するとともに、子育てや介護の不安に向き合い、社会保障制度を全世代型へと大きく改革する」として「人づくり改革」を推進する考えを示しました。そして、「誰もが能力を最大限に発揮でき、いくつになっても、誰にでも、学び直しとチャレンジの機会があるなどの、所謂”一億総活躍社会”」をつくりあげ、日本を力強く成長させる』と宣言しました。

北海道においても、今年、1869 年(明治 2 年)に「北

海道」と命名されて 150 年目となります。

明治政府によって、それまで「蝦夷地」と呼ばれていたこの地が、明治 2 年 8 月 15 日、正式に「北海道」と命名されたのでございます。

高橋はるみ知事は、150 年目の節目と捉え、積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返って、感謝し、祝うとともに、次の 50 年に向けて自信と誇りを持てる、新しい北海道を創る年と位置づけました。

このように、北海道も未来につなぐ節目の年になっておりまして、「次の世代へバトンをつなぐ」飛躍の年になっているわけであります。

さて、わが町にとっても「ひと・まち・しごと創生総合戦略」の実質 3 年目となります。

戦略をひとつひとつ着実に、また大胆に進めて、今だけではない 10 年後 20 年後、未来の礼文町にバトンをつないでいかなければなりません。

本町発展の大きな柱は、やはり、礼文町の基幹産業である「漁業」と「観光」を振興させることであり、「商工業」とともに本町経済の基盤を安定させ、働く場を増やし、元気なまちにすることにあります。

幸い、昨年から、「有人国境離島特別措置法」という法律が施行され、礼文島も利尻島や奥尻島とともに全国 71 の「特定有人国境離島」に指定されました。

わが国の領海や排他的経済水域の保全に貢献している有人国境離島の地域社会の維持を図り、無人島にしないよう、地域社会を維持する施策を確実に実行するという心強い法律でございます。今は、フェリー運賃を JR 運賃並みに、また、航空運賃を新幹線並みの運賃に引き下げることや水産物の輸送コストの更なる低廉化、さらに滞在型観光の推進、雇用機会の拡充を図ることとしておりますが、割高な「離島価格」を解消させる取組ももっと進めなければならないと考えています。そして、同時に、私は、「教育の振興」も忘れてはならない大事なことであると思っています。

年末の新聞に「香深井小学校のコンブ学習」のことが書かれていました。

コンブの歴史から繁殖、生育、さらに生産された製品が消費地に出荷されるまでや、加工品になってどんな評価をなっているかなどを学ぶ「香小コンブ」という所謂「地域に学ぶ礼文学」であります。

また、小学生に限らず、中学生や高校生も就学旅行では、観光大使となって都会の多くの人たちに礼文島の素晴らしさを伝えています。

さらに、礼文高校生は毎年、京都の老舗の料亭で、礼文島で採れたコンブが大事に使われている様子を体験しています。

まさしく、自分たちのお父さんやおじいちゃんが礼文の海で採ったコンブが遠く離れた京都で大切にされていることを見るという貴重な経験をされているのでございます。

このような子ども達にふるさとへの愛着心と夢を与える取組みをされていることに、私は、心から拍手を贈りたいと思います。

「礼文町まち・ひと・しごと創生」総合戦略は、「島に安定した雇用を創り上げること」「島に新しい人の流れをつくること」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえること」「他の地域と連携して地域づくりを進め、安全な暮らしを守ること」の四つが目標であります。自然豊かな礼文島を愛し、コンブに代表される礼文の漁業を愛し、礼文島に住む家族を愛する … 礼文島でなければ経験することのできない素晴らしい教育にも感謝しながら、子供たちを健やかに育てていきたいと考えています。

それが、これからも「暮らす人々が幸せを感じ、将来にわたって住み続けたいと思えるまちづくり」を行う上で大事なことだと思ふからであります。

昨年末、政府が発表した景気動向によりますと、2012年(平成24年)12月から続いている現在の景気拡大は62ヶ月目に入り、1965年(昭和40年)11月から1970年(昭和45年)7月まで57ヶ月続いた高度成長期の「いざなぎ景気」を超え、戦後2番目の長さの景気拡大になっていると発



表されました。

また、この景気拡大が来年 1 月まで、あともう 1 年続くと、戦後最長の景気回復、景気拡大になるとも予想されています。

景気の流れが弱く、賃上げも勢いがいないため、地方ではなかなか実感がありませんが、確実に景気は拡大しております。今年も、誰もが実感できる景気回復が期待されております。

ようやく日本経済に明るさが戻りつつある中、今年も、「安心して暮らせる礼文島」を取り戻してまいりますので、あらためて、町議会議員各位並びに町民皆さんの尚一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、皆様にとりまして、今年一年が素晴らしい年でありますよう心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。

本年もよろしくお願い申し上げます。